CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 2014年版

（仮称）広島大学本部跡地 ナレッジシェアファーム 新築工事

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳							
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1　建物の熱負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 外皮性能を断熱等性能等級3としている	3.0	0.28	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能
	0.0	0.00								
	3.2	0.72	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制				
小計	3.1	0.04								
1.2　自然エネルギーの利用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 建物全体で省エネ基準を満足し、省エネルギーに配慮している。	3.2	1.00	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用				
小計	3.2	0.06								
1.3　設備システムの高効率化										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ LED照明器具を採用し、設備の高効率化に配慮している。	3.9	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計	3.9	0.29								
1.4　設備システムの効率的運用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 設備ごとの取扱説明書を居住者に渡し、メンテナンスを可能にし設備性能維持に配慮している。	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング		
	1.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制		
小計	2.0	0.12								
1.5　資源・マテリアル対策										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ PS、天井内配管等により設備との錯綜を回避することで、部材の再利用の可能性を高めている。	3.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利システム導入の有無
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	5.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	3.2	0.35								
1.6　ライフサイクルCO2排出率										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください LCCO2の排出率を参照値より抑制している。	4.4	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計	4.4	0.15								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.4	0.69								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1　温熱環境の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に中高木・緑地、屋上緑化を設けることにより、良好な緑地環境に配慮している。	2.0	0.49	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出				
	3.0	0.24	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	3.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	2.5	0.97								
2.2　交通負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車場・駐輪場の台数の基準を満たしている	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	3.0	0.03								
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	2.5	0.19								
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1　耐用性の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体は劣化対策等級2相当とし、設備では耐用年数の長い配管材を採用することで建物の長寿命化に配慮している。	3.0	0.18	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	1	耐震性
	3.0	0.27	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	2	免震・制振性能
	4.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	2.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	4.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	2.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.2	0.40								
3.2　設備の更新性										
（コメント）　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 構造部材を痛めることなく更新できるように配慮している。	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保
小計	3.0	0.60								
3.「長寿命化対策」の推進の平均点（上記2項目）	3.1	0.12								
■重点項目の総平均（上記3項目）	3.2									